

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一 評論文（文学部）（45点）

問1 7点

（模範解答例）

A①〇1点 A②〇1点 A③〇1点

私たちは、近代人としての共通の質と固有の内面を持って生活しているが、

B①〇1点 B②〇1点 B③〇1点

ひきこもりの若者は、自己の思い通りに生きたいだけで、近代性、つまり社会性を拒否

していること。〇1点
X〈対比〓比べること〉〇1点
（7点）

【構造点】

・Xは、傍線部を、A（「私たち」のあり方）とB（「ひきこもりの若者」のあり方）を〈対比〓比べること〉
とすることで説明する仕組みへの評価である。ここでは条件A内の要素と条件B内の要素がそれぞれ
少なくとも一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X〈対比〓比べること〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。（6点満点）

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。（1点）

A 「私たちは、近代人としての共通の質と固有の内面をもって生活しているが、」（2点）

※ 傍線部を説明するための「私たち」の条件。

① 「私たちは」の要素に1点

○ 「近代人としての私たちは」、「近代的人間は、」などでも可。

× 「私たち」のニュアンスがなければ×0点。

② 「近代人としての共通の質と」の要素に1点。

- 「近代人が共有する質」と「近代人としての共通の資質と」などでも可。
- × 「近代人」「共通の質」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

③ 「固有の内面をもって生活しているが、」の要素に1点。

- 「固有の内面を持って生きているが、」「独自の内面を携えて暮らしているが、」などでも可。
- × 「固有の内面」「生活」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

B 「ひきこもりの若者は自己の思い通りに生きたいだけで、近代性、つまり社会性を拒

否していること。」(3点)

※ Aと比べられる「ひきこもりの若者」の条件。

① 「ひきこもりの若者は」の要素に1点。

- 「ひきこもっている若者は」「ひきこもり状態の若者は」などでも可。
- × 「ひきこもり」「若者」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

② 「自己の思い通りに生きたいだけで、」の要素に1点。

- 「自分の思うとおりに行きたいだけで、」「自分勝手に行きたいだけで、」などでも可。

③ 「近代性、つまり社会性を拒否していること。」の要素に1点。

- × 「自己の思い通り」「生きたい」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。
- 「近代性、あるいは社会性を拒絶していること。」「近代性としての社会性を拒んでいること。」「などでも可。
- × 「近代性」「社会性」「拒否」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

問2 6点

(模範解答例)

A ○1点

近代的な個人は、

B ○1点

一人称としての「私の内面」を持つが、

C ○1点

他人に見えるのは二人称、三人称としての「社会からみた私のすがた」であり、

X〈逆説⇨矛盾を含むこと〉○1点

D ○1点

Y〈総合⇨まとめること〉○1点

二つの異なる「私」が同時に存在していること。(6点)

【構造点】

・Xは、条件Aを、B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する〈逆説⇨矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは条件A、B、Cがそろっていれば、この仕組みが成立しているとして1点加点。

X〈逆説⇨矛盾を含むこと〉 A+B+C ○1点

・Yは、条件B、Cを条件Dに〈総合⇨まとめること〉する組みへの評価である。ここでは条件B、C、Dがそろっていればこの仕組みが成立しているとして1点加点。

Y〈総合⇨まとめること〉 B+C+D ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、原則的に部分採点可能とする。(4点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「近代的な個人は、」(1点)

※ 傍線部を説明するための主体明示の条件。

○ 「近代的な個人の在り方とは、」「近代的個人というものは、」などでも可。

× 「近代的」「個人」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

B 「一人称としての『私の内面』を持つが、」(1点)

※ Aを説明する一方の条件。

○ 「一人称である内面としての『私』を持つが、」一人称と呼ばれる内面的な『私』を有するが、」などでも可。

× 「一人称」「『私の内面』を持つ」の二成分のニュアンスのそろっていないなければ×0点。のニュアンスがなければ×0点。

C 「他人に見えるのは二人称、三人称としての『社会から見た私のすがた』であり、」(1点)

※ Aを説明する、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

○ 「他人から見えるのは、あなた、彼、彼女としての『まわりから見た私のすがた』であり、」他人が把握するのは、二人称、三人称である『他人から見た私のすがた』であって、」などでも可。

× 「他人に見える」二人称、三人称』『社会から見た私のすがた』の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

D 「二つの異なる『私』が同時に存在していること。」(1点)

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

○ 「二つの矛盾をはらんだ『私』が同居していること。」「二つの反発しあう『私』が共存していること。」などでも可。

× 「二つの異なる『私』」「同時に存在」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

問3 5点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

学校で教育・訓練するのは、近代の理性的、合理的な人間の姿である「社会的な個人」

の要素だが、

B〇1点

それは「自分は自分」だけでは生きられないと教えることであり、

C〇1点

子どもに不安定さ、自己懷疑を持たせて社会に送り出すことになるから。(5点)

X (分析Ⅱ分けること) 〇1点

【構造点】

・Xは、条件Aを、条件B、Cの〈因果関係〉にある〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉して説明する仕組みへの評価である。ここでは、条件Aの要素が一つ以上、それに条件B、Cそろってれば、この仕組みの骨組みは成立していると見なし1点加算。

X (分析Ⅱ分けること) Aの要素+B+C 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(4点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(1点)

A 「学校で教育・訓練するのは、近代の理性的、合理的な人間の姿である『社会的な個人』の要素だが、」(2点)

※ 傍線部の理由説明をするための話題提示の条件。

① 「学校で教育・訓練するのは、」の要素に1点。

○ 「学校で子どもが教育・訓練されるのは、」 「学校での教育と訓練の中身は、」 などでも可。

× 「学校」「教育・訓練」の二成分のニュアンスそろっていないければ×0点。

② 「近代の理性的、合理的な人間の姿である『社会的な個人』の要素だが、」の要素に

1点。

- 「近代の理性と合理性に基づく人間の在り方である『社会的な個人』の側面だが、「近代の合理主義的な人間の存在様式である社会的個人の一面だが、」などでも可。
- × 「近代の理性的、合理的な人間」「『社会的な個人』」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

B 「それは『自分は自分』だけでは生きられないと教えることであり、」(1点)

- ※ Aが内包する〈因果関係〉の〈因〉の条件。
- 「それは『内的な自己』だけでは生きていけないことを教えることであり、「それは『自分がそう思っている自分』だけでは生存不可能であることを教えることであり、」などでも可。
- × 『『自分は自分』だけでは「生きられないと教える」の二成分のニュアンスがそろっていないと×0点。

C 「子どもに不安定さ、自己懐疑を持たせて社会に送り出すことになるから。」(1点)

- ※ Aが内包する〈因果関係〉の〈果〉の条件。
- 「子供を不安定にし、自己を疑わせて近代社会で生きさせることになるから。」
「子供を不安にさせ、自分に自信をなくさせて社会の中に投げ込むことになるから。」などでも可。
- × 「子ども」「不安定さ、自己懐疑を持たせて」「社会に送り出す」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

問4 7点

(模範解答例)

B ○ 1点

「内的な自己」は自己の主観で構成されているが、

A ○ 1点

実は近代的個人の

C ① ○ 1点

C ② ○ 1点

もう一方の要素である「社会的な個人」も、客観的に「正しい」ものではなく、「私」

C ③ ○ 1点

C ④ ○ 1点

に対する他人や外部の評価、位置づけを意識し取り入れて判断する、「私」の主観によ

X 〈分析Ⅱ分けること〉 ○ 1点

って構成されていること。(7点)

【構造点】

・ Xは、条件Aを、一応〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析Ⅱ分けること〉として説明する仕組みへの評価である。この場合、条件Aと、条件B、C内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X 〈分析Ⅱ分けること〉 A+Bの要素+Cの要素 ○ 1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、またC内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した、条件、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合のみ加点する。(1点)

B 『内的な自己』は自己の主観で構成されているが、「(1点)

※ 後述のAを説明する一方の条件。

○ 『私の内面』は自己の主観で成り立っているが、「自己の内面は自分の主観で構築されているが」などでも可。

× 『内的な自己』「自己の主観で構成」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

A 「実は近代的個人の」(1点)

※ 傍線部を説明するための主体明示の条件。

- 「近代の個人の」「実は近代的人間の」などでも可。
- × 「近代的」「個人」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

C 「もう一方の要素である『社会的な個人』も客観的に『正しい』ものではなく、『私』に対する他人や外部の評価、位置づけを意識し取り入れて判断する、『私』の主観によって構成されていること。」(4点)

※ Aを説明するもう一方の条件。

- ① 「もう一方の要素である『社会的な個人』も」の要素に1点。
- 「他方の側面である『社会的な個人』も」「もう半面を構成する『社会的な個人』も」などでも可。
- × 「もう一方の要素」「社会的な個人」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「客観的に『正しい』ものではなく、」の要素に1点。

- 「客観的に『正しい』というわけではなく、」「客観的な正しさを保障されているわけではなく」などでも可。
- × 「客観的」「正しい」の否定」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

③ 『私』に対する他人や外部の評価、位置づけを意識し取り入れて判断する、」の要素に1点。

- 『私』に対する周囲の評価、位置づけを取り入れて判断する」「私」への外からの評価、定位を考慮に入れて判断する、」などでも可。
- × 『私』に対する他人や外部の評価、位置づけ」「取り入れて判断」二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

④ 『私』の主観によって構成されていること。」の要素に1点。

- 『私』の主観が構築しているものだとしたこと。』『私』の主観に拠っているものだとしたこと。』などでも可。
- × 『私の主観』『構成』の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

問5 7点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

近代社会において、「外部に表示した私」は、

B〇1点

学校の成績や会社での実績などのように、人同士を比べる基準として構想されたものとも

いえ、

C〇1点

X〈分析〓分けること〉〇1点

必然的に個人を比較や競争に巻き込むため、

D〇1点

Y〈総合〓まとめること〉〇1点

それを嫌う人は生きていく場所を奪われるということ。(7点)

【構造点】

・Xは、条件Aを、B、Cの〈因果関係〉にある〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〉して説明する仕組みへの評価である。ここでは、Aの要素が少なくとも一つと、条件B、Cの要素がそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立している判断し1点加算。

X〈分析〓分けること〉 Aの要素+B+C 〇1点

・Yは、条件B、Cを、条件Dに〈総合〓まとめること〉して結論づける仕組みへの評価である。ここでは、条件B、C、Dがそろっていれば、この仕組みは成立しているとし1点加算。

Y〈総合〓まとめること〉 B+C+D 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件A内においては要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(5点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「近代社会において、「外部に表示した私」は、」(2点)

※ 傍線部を説明するための〈主体明示〉の条件。

① 「近代社会において、」の要素に1点。

○ 「近代の社会では、」 「近代的な社会の場で、」 などでも可。

× 「近代社会」のニュアンスがなければ×0点。

② 『外部に表示した私』は、」の要素に1点。

○ 「周囲に表示された『私』は、」 「社会に露出した『私』は、」 などでも可。

× 『外部に表示した』『私』の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

B 「学校の成績や会社での実績などのように人同士を比べる基準として構想されたともいえ、」(1点)

※ Aを説明する〈因果関係〉の〈因〉の条件。

○ 「学校や企業での成績や実績のように人と人とを比較する基準のありようとして構想されたものともいえ、」 「学校の成績や会社での業績がそうであるように人間同士を比較するための基準として設計されたともいえ、」 などでも可。

× 「学校の成績や会社での実績」「人同士を比べる基準」「構想」「三成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

C 「必然的に個人を比較や競争に巻き込むため、」(1点)

※ Aを説明する〈因果関係〉の〈果〉の条件。

○ 「結果的に人間を比較や競争に追い込むため、」「結局個人を比較や競争から逃れられないようにするため、」 などでも可。

× 「個人」「比較や競争」「巻き込む」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

D 「それを嫌う人は生きていく場所を奪われるということ。」(1点)

※ B、Cの〈因果関係〉の二条件をまとめて結論づける条件。

○ 「それ(≡比較や競争)が嫌いな人は生活の場を確保することが難しくなる」ということ。「それに背を向ける人は引きこもる方向に向かわざるをえなくなる」と。「などでも可。

× 「それ(≡比較や競争)を嫌う人」「生きて行く場所を奪われる」の二成分のニュアンスがそろっていないと×0点

問6 6点

(模範解答例)

A ○1点

「私」自体は「私は私である」という確信に支えられた「内的な自己」だが、

B ① ○1点

ヨーロッパ中世でそれを守っていた「神」に代って、

B ② ○1点

近代において「社会的な個人」が構成され、

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

C ○1点

Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点

私たち近代人は両者を使い分けて生きているということ。(6点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を、Aの「内的な自己」と、Bの「社会的な個人」という、自己内部の〈矛盾〉を孕む二条件に引き裂いて説明する仕組みへの評価である。ここでは、条件Aと、条件Bの要素が一つ以上あればこの仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Aの+Bの要素 ○1点

・ Yは、〈矛盾〉を孕むAとBの二条件を、Cに〈総合〓まとめること〉して結論づける仕組みへの評価である。ここでは、条件A、条件Bの要素が一つ以上、条件Cがそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Y 〈総合〓まとめること〉 A+Bの要素+C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士においても、また条件B内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(4点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 『私』自体は『私は私である』という確信に支えられた『内的な自己』だが、(2点)

※ 傍線部を説明する一方の条件。

○ 『私』本体の確信の核はありのままの自己を確信する『内的な自己』であるが、『私』それ自身は『私』自身であることを疑わない『内的な自己』だが、「などでも可」。

× 『私』本体「『私は私である』という確信」「『内的な自己』」の3成分のニュアンスがそろってなければ×0点。

B 「ヨーロッパ中世でそれを守護していた『神』に代って、近代において『社会的な個人』が構成され、」(2点)

※ 傍線部を説明する、Aとは〈矛盾〉を孕む他方の条件。

① 「ヨーロッパ中世でそれを守護していた『神』に代って、」の要素に1点。

○ 「中世ヨーロッパでそれを守護していた『神』を退けて、」「ヨーロッパ中世におけるその守護者であった『神』の代わりに、」などでも可。

× 「ヨーロッパ中世」「守護」「神」に代わって」の三成分のニュアンスがそろっていなければ×0点。

② 「近代において『社会的な個人』が構成され、」の要素に1点。

○ 「近代になって『社会的な個人』が構築され、」「近代に『社会的な個人』が生まれ、」などでも可。

× 「近代」「社会的な個人」「構成」の三成分のニュアンスがそろっていなければ×0点。

C 「私たちは近代人は両者を使い分けて生きているということ。」(1点)

※ 〈矛盾〉を孕む二条件A、Bをまとめて結論づける条件。

○ 「私たちは状況によっていづれかに依拠しながら生きているということ。」「近代人は両者のどちらかに拠りながらその時々を生きていること。」などでも可。

× 「私たち(≠近代人)」「両者を使い分けて生きている」「二成分のニュアンスがそろっていなければ×0点。

問7 7点

(模範解答例)

A ○1点

学校へ行って勉強し、近代的な知や技能を受け容れるように「私」を近代的、社会的に

変容させて現れる「社会的な個人」と

B ○1点

「内的な自己」との相互作用で、

C ○1点

X 〈弁証法Ⅱ創造すること〉 ○1点

「近代的な個人」が形成されるが、

D ○1点

この過程が苦痛を伴うにもかかわらず、

E ○1点

日本ではほとんどの子どもたちが進んで従事しているから。(7点)

Y 〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉 ○1点

【構造点】

・ Xは、条件A、Bの〈相互作用(≠衝突)〉を〈止揚〉して、Cを〈創造〉する〈弁証法Ⅱ創造すること〉との仕組みへの評価である。傍線部を説明する前提条件となる。ここでは、条件A、B、Cがそろっていれば、この仕組みが成立しているとして1点加点。

X 〈弁証法Ⅱ創造すること〉 Aの+Bの+C ○1点

・ Yは、〈A+B+C〉の〈弁証法〉の具体的な様態を、D、Eの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する、〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは、条件A、B、Cのいずれかがあり、加えて条件D、Eがそろってれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

Y 〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉 〈A、B、C〉の内の少なくとも一つ+D+E ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、D、Eは条件同士において、原則的に部分採点可能とする。(5点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「学校へ行って勉強し、近代的な知や技能を受容できるように『私』を近代的、社会的に変容させて現れる『社会的な個人』と」(点)

※ 傍線部を説明するための〈弁証法〉の一方の条件（＝契機）。

○ 「学校で勉強して、近代的な教養や技術を身につけられるように『私』の近代的、社会的変容によって現れる『社会的な個人』と」、「学校に行つて学び、近代的な知識や技能を習得できるように『私』を社会的、近代的に訓練することによって出現する『社会的な個人』と」、「などでも可。

× 「学校へ行つて勉強」「近代的な知や技能の受容」「私』を社会的、近代的に変容」「社会的な個人』の四成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

B 『内的な自己』との相互作用で、」（1点）

※ 傍線部を説明するための〈弁証法〉の他方の条件（＝契機）。Aとは〈矛盾（≠衝突）する他方の条件（≠契機）。

○ 『内的な自己』との矛盾を止揚して』『内的な自己』との絡み合いから「などでも可。

× 『内的な自己』『相互作用（≠矛盾の止揚）』の二成分がそろっていないなければ×0点。

C 『近代的な個人』が形成されるが、」（1点）

※ 〈弁証法〉の創造された次元。第三の条件（≠契機）。

○ 『近代的な個人』が創出されるが、「近代の個人が登場するが、「などでも可。

× 『近代的な個人』『形成』二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

D 「この過程が苦痛を伴うにもかかわらず、」（1点）

※ 〈弁証法〉の現実的な様態を表す一方の条件。

○ 「このプロセスが苦労を要するにもかかわらず、「この過程が産みの苦しみを伴うのに」「などでも可。

× 「この過程（＝弁証法）」「苦痛」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

E 「日本ではほとんどの子どもたちが進んで従事しているから。」（1点）

※ 〈弁証法〉の現実的な様態を表す、Dとは〈矛盾〉する他方の条件。

○ 「日本ではたいていの子どもたちが意欲的に取り組んでいるから。「日本では子供たちのほとんどがこれに励んでいるから。」などでも可。

× 「日本のほとんどの子どもたち」「進んで従事」の二成分のニュアンスがそろっていないなければ×0点。

□ 随所師説 (30点)

問1

(ア) アどこにイ理解できないところがあるのか、いや全て理解できる。【2点】

アー①点 「どこ」 + 反語「さだろうか(いやくない↑なくても可)」 完答

イー①点 「理解できる・わかる」 + 打消 完答

(イ) アあてにしイにくいものッである【2点】

ア あてにする・たよりにする

イ くしにくい・くしがたい・くするのが難しい

ウ 断定「だ・である」

*三か所できて②点 二か所できて①点 ○・一か所は①点

(ウ) ア自然とイ歌として成立するものッである【2点】

ア 副詞「ひとりでに・自然と」 ×一人(↑名詞として)

イ 「むかふ」は文脈から「歌として成立する・歌になる・歌ができる・歌が詠める」など。

ウ 断定の助動詞「だ・である」

*三か所できて②点 二か所できて①点 ○・一か所は①点

(エ) アどうしてイすばらしい歌ができないことがあるのか、いや、つべき。【2点】

アー①点 「どうして」 + 反語「さだろうか(いやくない↑なくても可)」 完答

イー①点 歌が「できる」 + 打消「ない」 完答

問2

①アその時代の誰が聞いても理解できる言葉を用いるのがよいのに、イ今では理解しがたい万葉時代の言葉をあえて用いる「万葉ぶり」はウ愚かしいという批判。【④点】

アー①点 本来あるべき歌：誰もが理解できる言葉を使う

イー②点 批判の対象（現状）：現代では理解できない万葉言葉を使う（「万葉ぶり」）

ウー①点 批判：愚かしい・ばかげている・くだらない など

②ア日常の平易な言葉を用いずに歌を詠もうとしても、結局良い歌ができることはいという批判。【③点】

アー②点 歌を詠むのに平語（日常の平易な語）以外を用いること。

イー①点 良い歌ができない・無駄である・成果は出ない など

問3

ク活用の形容詞「多し」連用形／カ行四段動詞「なりゆく」連体形／断定の助動詞「なり」終止形 【③点】

*活用の種類、終止形、活用形の三つが完答で、単語ごとに①点。

問4

ア名利を求めめる心は、イ理性では捨て去るべき心情だとわかっていても、ウ簡単には頭から離れず、捨て去ることができないという状況。 【③点】

アー①点 「名利心を離るる」にあたる語↓名譽や利益を求めめる心（名利心）を捨てること。

イー①点 「打てども」にあたる語↓捨てようと思っても・努力しても・意識しても などでも可。

ウー①点 「去らぬ」にあたる語↓捨てることができない など

問5

ア聞く人にすぐ意味がわかるような、今の時代の日常用いる平易な言葉で詠み、イ名譽と利益を求めめる心を捨て去ることを心がけ、ウ真心中で歌を詠み続けること。【⑤点】

アー②点。今の時代の理解できる言葉で詠むこと。

イー②点。名利心を捨てること。

ウー①点。真心中で歌を詠むこと。

問6

紀貫之・イ 【各②点】

三 しのびね (30点)

問1 ① ア そうは いって も やはり イ 恥 ず か し そう に お っ し や る ウ の で 【3点】

アー①点。そうは いって も やはり ・ やはり ・ とはいえ など

イー①点。恥 ず か し そう に お っ し や る ・ は じ ら つ て お っ し や る 羞恥 + 「言ふ」の尊敬語 完

答

ウー①点。原因・理由「ので・から・ため」

② ア 何 度 も 熱 心 に イ お 手 紙 を ウ 差 し 上 げ な さ る の で 【3点】

アー①点。「たびたび・何度も」 + 「熱心に・丁寧に・心をこめて」など

イー①点。お手紙。

ウー①点。差し上げる(謙讓) + なさる(尊敬) + ので(順接) 完答

③ ア 御 心 積 も り を イ な さ る こ と ウ あ る の で 【3点】

アー①点。「御心積もり・御心の準備」

イー①点。なさる(「す」の尊敬語)

ウー①点。断定「である」 + 原因理由「ので・から」

問2 a 断定の助動詞「なり」連用形

b 完了の助動詞「ぬ」未然形

c 打消推量の助動詞「じ」終止形

d 存続(完了)の助動詞「り」の連体形 【各①点】

*助動詞の用法・終止形・活用形 の三点が完答であること。

問3 ア 少 将 と 姫 君 の 縁 は イ 前 世 か ら の 因 縁 で あ る と い う こ と 【3点】

アー①点。少将と姫君の関係(縁・思いを寄せること)

イー②点。前世からの因縁であること。この世だけの縁ではないこと。

問4

ア 人並ではない心細い暮らしをする姫君が、立派な身分の少将と結ばれてもかえって物思いの種になると思い、イ 申し出を受け入れがたい気持ちであったが、ウ 自分の死後に身分の賤しい男に言い寄られるよりは、エ 立派な少将の申し出を受け入れて、少将と姫君とを連れ添わせたいと思うようになった。【⑥点】

ア―①点。以前の思いの理由 ↓ 姫君と少将の身分・暮らしが釣り合わず、物思いの種になるから

イ―②点。以前の思い ↓ 少将の申し出を受け入れがたい気持ち

ウ―①点。今の思いの理由 ↓ 自分の死後に賤しい男に言い寄られるからかもしれないから

エ―②点。今の思い ↓ 少将の申し出を受け入れようという気持ち

問5

ア 少将が、イ 姫君について、ウ 思っていた以上に美しくかわいらしいので、エ 自分が見つけ出すことができ、他の男に取られずに済んだことに満足している。【④点】

ア―①点。心情の主体「少将が」

イ―①点。誰について「姫君について」

ウ―①点。(近くで見るといっそう・予想以上に) かわいらしい

エ―①点。他の男のものにならずに自分のものにできたことを喜ぶ気持ち。

問6

ア 父内大臣や母上に常に気遣われて大事にされている高貴な家柄の子息であるが、イ 姫君に対しては親の指図も煩わしく思うほどに一途な愛情の示し方をする人物。【④点】

ア―②点 内大臣家の貴公子として大切に扱われていることがわかれば可。

イ―②点 姫君に対しては、自分の意志で熱心に求愛していることがわかれば可。

四 漢文(45点)

問1 6点

(模範解答例)

未レ知下所三以取ニ書画一法上也

*解答例のみ正解。

*ただし、返り点(レ点、一二三点、上下点)がすべて正しいが、「書画」にハ
イフンを入れているもの(「未レ知下所三以取ニ書画一法上也」として
いるもの)は5点減点(1点)

問2 7点

(模範解答例)

A ○1点

まして、

B ○1点

その人の描いた文字や絵画が

C ○1点

技巧のすぐれたものであれば、

D ○1点

それを手に入れた者は、

E ○1点

なおさら

F ○2点

尊敬の念を抱くであろう。

各加点要素の加点の条件

【A・B・C・D・E・Fに関して部分採点を行う】

A ○1点(「況」の解釈)

※「まして」のみ正解。

B ○1点(「其字画之」の解釈)

※「其」は、「その」と訳せていれば、「人の描いた」の有無は問わない。

※「字画」は、「字」と「絵」のことだと表現できておらず、「字」のみ・

「画(絵画)」のみ・「字画」のようにしているものはB×(B〓0点)

※「之」は「の」「が」のどちらかであれば可。

C ○1点(「工」の解釈)

※「工」の意味は、「技術が」「技巧が」の有無を問わず、「すぐれている」「上手い」の意味に取れていればよい。「巧み」も可とする。

※「〜であれば」は、「〜の場合」「〜ものは」なども可。

D ○1点(省略部の補い1)

※「それ」は「書画」「書と絵」も可。

※「手に入れた者(人)」は「得る者(人)」「見る者(人)」なども可。

E ○1点(省略部の補い2)

※「いっそう」「ますます」「当然」も可。

※また、この部分の解釈を文末に持って来て「尊敬の念を抱くのも当然だ」のようにしても可。

F ○2点(省略部の補い3)

※「応に敬を生ずべし」の部分を読して補っていけばよい。

※ただし、「尊敬」「敬意」という語を使わなくても、「書画(またはその作者)を高く評価する」意が補えていれば可とする(例「すばらしいと思うだろう」「ほめたたえるだろう」「大切にするだろう」など)。

※推量表現(「〜だろう・〜にちがいない」の有無は不問とする。

※ただし、「〜だろう」を「当然〜べきだ」としているものはF1点減点。

問3 8点

(模範解答例)

A ○4点

もし作者が尊敬すべき立派な人物でないならば、

B ○2点

単に技巧のすぐれているだけの絵画に、

C ○2点

大切にされる価値はないということ。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

Aの要素(「苟非其人」の内容) 4点

※打消を含む仮定表現(「もしくはないならば・もしくなかったら・かりにもくなかったら・くはないならば・くなかったら」など)またはそれに準ずる表現(「くはない場合は」など)になっていない場合はA全体×(A
|| 0点)

※ただし「苟」の訳(もしも・かりにも)の有無は問わない。

※「其人」||「立派な人」「尊敬すべき人」(同意可)という意味であることが表現できていない場合はAマイナス3点。

※「字画の」作者が「の補いがない場合はAマイナス1点。「立派な人物による作品でないならば」のような書き方でも可。

Bの要素(特一画工所能)の内容) 2点

※「単に」「ただ」「だけ」の有無は不問とする。

※「技巧のすぐれた書画(作品)」に「の意味であれば可。

※「(一人の)絵画の技術の巧みな人の作品(書画・描いたもの・作ったもの)」のような表現でも可。ただし、「所能」の内容が具体的になく、「できること」と直訳しているものはB×(B||0点)。

※「技巧・技術」の要素がなく、単に「すぐれた書画(絵画・作品)」としてしているものはB1点減点。

※「技巧にすぐれた作品」でなく、「技巧にすぐれた人(絵描き・書家)」としてしているものはB×(B||0点)。

Cの要素(「何足貴也」の内容)

※「貴」||「貴ぶ・大切にする・大事にする・高く評価する・重視する」

の意であることが表現できていないものはC1点減点。

※「何ぞく足らんや」⇨「くする価値はない・くする必要はない」の意味であると表現できていないものはC1点減点。「くに足りない」「くに足りない」も許容する。

※反語表現を直訳して、「どうして貴ぶ必要があるか、いや、必要はないということ」としているものはC1点減点。

※疑問表現のみで、「どうして貴ぶ必要があるかということ」のようにしているものはC×(C⇨0点)。

※「何ぞく足らんや」を、「くてはならない(禁止)」「くすることはできない(不可能)」で訳しているものはC1点減点。

問4 6点

(模範解答例)

まさによのげんをもつてこれをもとむべし。

A まさにくべし

B よのげんをもつて

C これをもとむ

各加点要素の加点の条件

※ 「すべてひらがなで」という条件に違反しているものは全体×。

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A ○4点(再読文字「応」の読み方)

※ 解答例のみ○。

B ○1点(「以予言而」の読み方)

※ 「つ」は「つ」も可。

※ 「よのげんをもつてして」も可。

※ 他は一箇所でも間違っていればB× (B||0点)

C ○1点(「求之」の読み方)

※ 解答例のみ○。「これをもとめる」はC× (C||0点)

問5 8点

(模範解答例)

単に技巧がすぐれている書画でなく、
立派な人物によって描かれ、
その作者の人柄が想像できるような書画を
高く評価すべきである。

A〇3点

「書画の評価にあたっては) 技巧(の巧拙)が重要なのではない」

「高く評価すべきなのは) 技巧にすぐれた書画ではない」

B〇3点

「書画の評価にあたっては) 作者の人間性(の優劣)が重要だ」

「高く評価すべきなのは) 立派な人物によって描かれた書画だ」

C〇2点

「(書画から) 作者の(すぐれた) 人柄が想像できること」

各加点要素の加点の条件

※問題は「書画の評価はどうあるべきか」であって、「書画はどうあるべきか」ではないので、「書画はくであるべきだ」「書画はくであるのがよい」のような答え方になっている場合は2点減点。「くである書画をよいと考えるべきだ」のような答え方は、「考える」のは評価する人なので〇。

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

Aの要素 3点

※「書画の技巧そのものは重要ではない」ことが表現できていれば可。

※「技巧が重要なのではなく」「書画の技巧の巧拙よりも」なども可。

※「技術がすぐれているだけでなく」とすると、「技術がすぐれている」ことも高く評価されることの必要条件となってしまうのでA1点減点。

Bの要素 3点

※「重要なのは、作者の人間性がすぐれているかどうかだ」「立派な人物によって作られた書画を高く評価すべきだ」ということが表現できていれば可。

Cの要素 2点

※「作者の人柄が想像できる」ことも、評価の対象である（書画を高く評価する際の条件である）「ことが表現できていればよい。」

問6 各1点×5＝計5点

- | | | |
|---|----------|----|
| a | のみ | 1点 |
| b | およそ | 1点 |
| c | おのず(づ)から | 1点 |
| d | すなわ(は)ち | 1点 |
| e | やや | 1点 |

※ 解答例のみ○。

問7 5点

(イ) (ウ) (カ) (ク) (コ)

※ () の有無は不問。

※ 正解一つにつき1点を与え、不正解一つにつき減点1点とする。
ただし最低点は0点とする。